

科目名	生物学
学 年	1 年次
単 位	2 単位
時間数	3 2 時間（8 回）
学習目標	
生命が地球上にどのように誕生し進化してきたかという探求の歴史を学ぶ。 生命の基本単位である細胞の構造や働きについて学び、理解を深める。 生命の連続と遺伝子の発現、細胞分化について学び、理解を深める。 外からの刺激に対する受容性、並びに内部環境を維持する仕組みについて学ぶ。 様々な側面から生命の存在について考えを深めること、生命科学の広い分野への好奇心につながっていくこと、自ら探求の方法を身につけることを学びの目標とする。	
授業計画	
1. 生命とは何か 生物の特徴細胞の期限単細胞から多細胞へ生命の進化 2. 細胞と組織 細胞を作る物質細胞小器官とそれぞれのはたらき細胞、組織器官 ヒトの器官 3. 生命の連続 生殖遺伝と遺伝子発生のしくみ 4. 環境と動物の反応 外部刺激受容内部環境保持のしくみ（ホメオスタシス）	
授業形式	
講義 他	
教科書・参考書	
生物学（歯科衛生士シリーズ 医歯薬出版）	
評価の方法	
筆記試験（70）確認テスト（20）発表（10） 60/100 を合格とする	
備考	
合格点に満たない者については、補習 再試験 発表などを課すこととする	

科目名	化学
学 年	1 年次
単 位	2 単位
時間数	3 2 時間（8 回）
学習目標	
医療の現場で種々雑多な歯科材料などの物質を扱う立場として、化学の基礎知識は必要不可欠である。中高レベルの化学を振り返り、基本的な物質の本性を学ぶ。 その中で「歯科医学」と化学の関連を認識し、さらに深く掘り下げ知識の習得を目指す。	
授業計画	
1. 物質とは 2. 気体とは 3. 物質が水に溶けるとは 4. 酸化還元とは 5. 化学反応・化学平衡とは 6. 有機化合物とは 7. ヒトを形づくる元素とは	
授業形式	
講義	
教科書・参考書	
歯科衛生学シリーズ 化学（医歯薬出版）	
評価の方法	
筆記試験	
備考	

科目名	基礎数学
学 年	1 年次
単 位	1 単位
時間数	1 6 時間（8 回）
学習目標	
基本的な計算を通して、国家試験に対応できるような力を養い、歯科衛生士業務を行う上で必要な力を身につける。	
授業計画	
1. 数の基本性質 2. 分数の四則演算 3. 小数の四則演算 4. 割合 5. 割合の文章題 6. 統計① 7. 統計② 8. まとめ	
授業形式	
講義	
教科書・参考書	
評価の方法	
筆記試験	
備考	

科目名	心理学 (Psychology) ー心と行動の科学としての心理学ー
学 年	1 年次
単 位	1 単位
時間数	1 6 時間 (4 回)
学習目標	
心理学は、<u>人間理解</u>のための基礎的な知識を提供する学問である。他者を理解するには、まず<u>自己理解</u>が十分にできていることが大切である。この授業では、人間理解のための7つのテーマについての基礎的な知識を学び、歯科衛生士としての資質を向上させることに役立てることが目標である。 また、それをベースにして「人間関係論」の授業に結びつける授業展開にしている。	
授業計画	
1. 心理学とは 心と行動の科学としての心理学、 歯科衛生士の仕事と心理学、 自己理解と他者理解 2. 性格を知る ーその人らしさの心理ー 性格 (パーソナリティ) とは、性格の形成、性格の理論と性格診断 (性格検査の実習) 3. 情報処理とところ 情報処理としての知覚、知覚の成立、見る対象 (情報) の要因 (図形の体制化、知覚の歪みとしての錯視)、 見る側 (人間) の要因 (欲求・先行経験と知覚、パターン認知) 4. 発達するところの心理学 発達の法則性、発達課題、発達段階、発達の理論 (エリクソン、ピアジェ) 胎児期から青年期までの発達段階と特徴 5. 性の多様性 LGBTQ の理解と支援 6. 高齢者の発達特徴と心理 高齢者の認知・性格などの特徴、 高齢者への関わり方・支援のあり方のポイント 7. 発達の障害 発達障害とは、知的能力障害、自閉スペクトラム症 (ASD)、注意欠陥多動性障害 (ADHD)、学習障害 (LD) の理解と支援	
授業形式	
基本は講義形式であるが、内容の理解をしやすくするために映像教材を活用したり、性格検査の実習、知覚に関する実験の体験などを取り入れることで、興味をもって積極的に授業に取り組めるように工夫している。	
教科書・参考書	
教科書は使用しない。毎回の授業でそれぞれのテーマに関する内容のスライド資料・補足資料を配布する。 参考書： 最新歯科衛生士教本『心理学』 医歯薬出版株式会社	
評価の方法	
筆記試験 (60 分)	
備考	
授業内容の理解度を調べるために、毎回の授業の最後 (5～10 分程度) に、その日の授業で関心を持った内容、疑問点、感想などをミニレポートとして作成、提出してもらいます。次回の授業でコメントをつけて返却します。	

科目名	人間関係論
学 年	1 年次
単 位	1 単位
時間数	1 6 時間（4 回）
学習目標	
「心理学」で学んだ基礎的な知識を活用しながら、円滑な社会生活を過ごすために人間関係に関わる主な理論や知識・スキルを学び、習得することを目標にして授業を行う。将来的には、その知識を歯科衛生士の仕事の中で活用することを意識して受講していただきたい。	
授業計画	
1. 人と関わる心理 ー対人関係の心理学ー (1) 対人関係の発達、(2) 対人認知（印象形成）、(3) 対人魅力の要因、(4) 向社会的行動：愛他的行動、おもいやり、援助行動（実習）①EQ（情動知能）を調べる。 2. 人と集うところー集団の心理学 (1) 集団の心理、(2) リーダーシップ（PM 理論）、(3) 社会的影響（社会的促進・抑制、同調行動、説得のテクニック、流行とうわさ） （実習）「社会的スキル」を調べる。 3. 健康なところ ー適応の心理学ー (1) 行動のエネルギーとしての欲求、(2) マズローの欲求のヒエラルキー理論、 (3) フラストレーション、(4) コンフリクト、(5) 防衛機制、(6) レジリエンス （実習）「エゴグラム」で性格面でのストレスの受けやすさについて調べる。 4. ストレスの理解と対処 (1) ストレス反応を知る、(2) ストレスのメカニズム【ラザラスの「認知評価モデル」】、 (3) ストレスを軽減する対処法 （実習）①「ストレス反応、ストレス・コーピング」を調べる。 ②「リラクセーション」の実習。 5. カウンセリングのところ (1) 歯科衛生士とカウンセリング、(2) カウンセリングの理論（ロジャーズの理論） (3) カウンセリング・マインド、(4) カウンセリングの基礎技法： 傾聴：積極的受容・共感的理解；言語的かわり技法（開いた質問と閉じた質問）、非言語的かわり技法（姿勢、視線、相づちなど） （実習）カウンセリングの基礎技法の実習：グループに分かれて実習します。 （聞き手と話し手の経験、言語的関わり技法と非言語的関わり技法の使用）	
授業形式	
基本は講義形式であるが、内容の理解を促すために映像教材を活用したり、EQ（情動知能）やストレスへの耐性などを調べるテストを行い、対人関係の基礎についての自己理解を行ったり、カウンセリングの基礎技法である「質問技法」についてグループワークを行うなどの実習を取り入れることで、興味をもって積極的に授業に取り組めるように工夫しています。	
教科書・参考書	
参考図書： 最新歯科衛生士教本『心理学』 医歯薬出版株式会社	
評価の方法	

筆記試験（60 分）
備考
毎授業の最後に授業で関心を持った内容、疑問点、感想などをミニレポートに作成、提出。

科目名	社会学
学 年	1 年
単 位	1 単位
時間数	1 6 時間（4 回）
学習目標	
家族研究の事例や最新のトピックスをあげ、特に現代家族について、考察する。同時に、社会的なものを見方を学ぶことで、歯科衛生士としての役割を考える。	
授業計画	
1. オリエンテーション（授業の概要の説明）、社会学とは何か 2. 家族とは何か （1）あなたにとって家族とは？ （2）サザエさんの家族 3. 家庭内の地位と役割 4. 子どもにとって家族とは 5. まとめ（総括）	
授業形式	
講義形式（適宜、ビデオ教材を使用する）	
教科書・参考書	
評価の方法	
筆記試験	
備考	

科目名	英語 I
学 年	1 年次
単 位	1 単位
時間数	2 4 時間 (12 回)
学習目標	
① 日常的に使う語らいや表現、また専門用語をテキストを通して学習する。 ② 歯科衛生士として、現場で外国人患者と簡単なコミュニケーションがとれる。 ③ 私たちの日常生活にとけこんでいる英語やその文化を意識する。	
授業計画	
第 1 回 自己紹介、受付 (Lesson1) 第 2 回 呼び出しと案内 (Lesson2) 第 3 回 医療面接 (Lesson3) 第 4 回 口腔ケアに関する医療面接 (Lesson4) 第 5 回 Lesson1～4 のまとめ、Dental Hygienists Around the World (リーディング) 第 6 回 基本動作 1 (Lesson5) 第 7 回 歯周検査 (Lesson6) 第 8 回 スケーリング (Lesson7) 第 9 回 歯磨き指導 (Lesson8) 第 10 回 スタイン除去 (Lesson9) 第 11 回 ホワイトニング (Lesson10) 第 12 回 これまでの学習内容の確認	
授業形式	
・講義 ・会話練習 ・チェックテスト	
教科書・参考書	
歯科衛生士英語ワークブック 永末書店 【監修】山本 一世 【編著】藤田 淳一 【著者】岡 隼人、寺島 雅子、井村 和希、Julia Gadd、Brian Bachman	
評価の方法	
① 単位試験 (50%) ②提出物 (30%) ③授業中の取り組み (20%)	
備考	

科目名	英語Ⅱ
学 年	2 年次
単 位	1 単位
時間数	2 0 時間（1 0 回）
学習目標	
このコースの目的は、一般的な英会話と歯科臨床に特化した英会話のレベルを向上させることであり、日本語を話すことができない患者と英語で安心してコミュニケーションがとれるよう、有用で効果的なストラテジーを提供することである。	
授業計画	
第 1 回 オリエンテーション、自己紹介、受付 第 2 回 呼び出しと案内 第 3 回 医療面接 第 4 回 口腔ケアに関する医療面接 第 5 回 基本動作 第 6 回 歯周検査 第 7 回 スケーリング 第 8 回 歯磨き指導 第 9 回 支払いと次回の予約 第 10 回 学習内容の確認	
授業形式	
講義形式	
教科書・参考書	
歯科衛生士英語ワークブック 永末書店 【監修】山本 一世 【編著】藤田 淳一 【著者】岡 隼人、寺島 雅子、井村 和希、Julia Gadd、Brian Bachman	
評価の方法	
授業に積極的に参加する 20% 宿題 30% 筆記試験 50%	
備考	

科目名	国語表現
学 年	1 年次
単 位	1 単位
時間数	1 6 時間（8 回）
学習目標	
さまざまな文章を、その表現に即して的確に読み取り、国語力を養うとともに適切な表現力を身につける。	
授業計画	
1. 「まず伝わってこそ文章」・「自己紹介文」を書いて提出する。 2. 小テスト・「文章の書き方」・小論文の書き方 3. 小テスト・「わかりやすい表現」・悪文訂正 4. 小テスト・「表現の工夫」・接続の言葉 5. 小テスト・「言葉のキャッチボール」・同音異義語 同訓異字 6. 小テスト・「理想的な日本語生活を」 7. 小テスト・「漢字と日本文化」・四字熟語 8. 小テスト・「敬語の分類」・敬語の練習 ※毎回プリントを配布し、内容を理解する。課題プリント有り。 ※2回目以降は毎回小テストを実施する。	
授業形式	
プリントなどを用いながらの文章表現・意見発表 講義	
教科書・参考書	
評価の方法	
筆記試験（80％） レポート・小テスト（20％）	
備考	

実務経験のある教員による授業科目

科目名	解剖学・組織発生学
学 年	1 年次
単 位	2 単位
時間数	4 8 時間（1 2 回）
学習目標	
人体解剖学は医学の全ての学問の最も基礎となる学問で、身体の構造を学ぶ学問である。その対象はヒトである。解剖学には臨床の場と同じように生身の身体を対象とする「肉眼解剖学」と、より細かなところの構造を顕微鏡を用いて観察する「顕微解剖学＝組織学」とがある。口腔を含む顎顔面部は独立して存在するのではなく、全身の一部であり、全身と深く関わりをもっている。歯科領域に現れる疾患の多くも同様に全身状態と関わっている。解剖・組織学においては、歯を除く顎顔面部を主体にヒトの「からだ」の構造について学ぶ。また、ヒトが成長・発育する過程である発生学も合わせて学修する。	
授業計画	
1	解剖 総論 骨系（総論）
2	骨系（各論）
3	内・外頭蓋底 筋系
4	筋系
5	中間試験 骨学実習
6	組織（総論・各論）
7	発生学
8	消化器系（総論・各論）
9	呼吸器系
10	内分泌系
11	泌尿器系 生殖器系
12	脈管系（動脈・静脈・リンパ系）
13	神経系（総論） 神経系（中枢神経）
14	神経系（末梢神経）
15	感覚器系
授業形式	
1～15 板書およびパソコンによる映写による授業（講義） 5 骨模型を用いた実習	
教科書・参考書	
「学生のための 解剖・組織・発生学」医歯薬出版	
評価の方法	
小テスト（25%）、本試験（70%）、骨実習レポート点（5%）による評価	
備考	
小テストは牧草先生の講義で実施	

科目名	生理学
学 年	1 年次
単 位	1 単位
時間数	2 4 時間（6 回）
学習目標	
生理学は正常な生体の機能に関する学問である。ヒトの生命現象は、細胞、器官、個体の各レベルにおいて、精巧なメカニズムによって生体機能を発揮している。細胞の機能、末梢から中枢までの神経機能、機能別に分類された臓器の生理機能、感覚機能・運動機能を理解し、各組織、器官の精緻なシステムとしての人体機能について基礎的知識を理解し説明することができる。	
授業計画	
1 回目 生理学の意義・細胞・体液・体液の循環（その1） （教科書 p2～p24） 1 生理学の意義 1) 生理学を学ぶ意義と生命現象の特徴について概説する。 2) ホメオスタシス（生体恒常性）について説明する。 2 細胞 1) 細胞の基本構造と細胞内小器官の機能について説明する。 2) 細胞の基本的な機能（受動輸送、能動輸送ならびに興奮および電気現象）について説明する。 3 体液 1) 体液の組成について概説する。 2) 血液の組成について説明する。 3) 血球の種類と機能について説明する。 4) 血液凝固の機序について説明する。 5) 血液型（ABO式、Rh式）の分類方法について説明する。 6) リンパ液および脳脊髄液の機能について説明する。 4 体液の循環（その1） 1) 血液循環について説明する。 2) 心筋の特性について説明する。 3) 心拍数、心拍出量、脈波、心音について説明する。 2 回目 体液の循環（その2）・呼吸・消化および吸収（教科書 p24～p42） 1 体液の循環（その2） 1) 心臓の電気現象（心室筋細胞の活動電位、心電図の基本波形）について説明する。 2) 血圧について説明する。 3) 血液循環の調節機構について説明する。 4) リンパ系の機能および循環について概説する。 2 呼吸 1) 外呼吸と内呼吸について概説する。 2) 肺気量の内訳について説明する。	3) 胸式呼吸と腹式呼吸について説明する。 4) ガス交換の仕組みについて説明する。 5) 血液の酸素解離曲線について説明する。 6) 呼吸運動の調節機構について説明する。 3 消化および吸収 1) 消化の意義について概説する。 2) 消化管各部での消化運動および消化酵素とその働きについて説明する。 3) 消化運動と消化液の分泌機構について説明する。 4) 各栄養素の吸収過程について説明する。 5) 肝臓の機能について概説する。 3 回目 尿の生成および排出・代謝・体温（教科書 p44～p59） 1 尿の生成および排出 1) 腎ネフロン構造と機能について説明する。 2) 尿の一般性状について説明する。 3) 尿の生成機序について説明する。 4) 体液平衡の機能調節について概説する。 5) 排尿機構について概説する。 2 代謝 1) 栄養素のエネルギー量について概説する。 3 体温 1) 体温の変動とその原因について説明する。 2) 熱の産生機構と放散の機序について説明する。 3) 汗腺の種類と発汗の機序について説明する。 4) 体温の恒常性維持機構について説明する。 4 回目 内分泌（教科書 p60～p75） 1 内分泌（その1） 1) 内分泌器官の構造と機能について説明する。 2) 各種ホルモンの調節作用について説明する。 3) 各種ホルモンの作用および機能異常について説明する。 4) 内分泌器官の構造と機能について説明する。 5) 各種ホルモンの調節作用について説明する。 6) 各種ホルモンの作用および機能異常について説明する。

2 生殖 1) 女性の性周期の変化と性ホルモンの関係について説明する。 2) 妊娠・分娩と性ホルモンの関係について説明する。 5 回目 筋・神経 (その1) (教科書 p76～p90) 1 筋 1) 筋の種類について概説する。 2) 骨格筋収縮の種類とその過程について説明する。 3) 骨格筋の収縮の機序について説明する。 4) 筋電図について概説する。 5) 神経筋単位について説明する。 6) 筋の種類とその特性について説明する。 2 神経 (その1) 1) 神経線維の基本構造と分類について説明する。 2) 興奮伝導の原則について説明する。	3) シナプスにおける興奮伝達について説明する。 4) 神経伝達物質について説明する。 5) 神経系の分類について概説する。 6) 自立神経機構について説明する。 6 回目 神経 (その2) ・感覚 (教科書 p91～p111) 1 神経 (その2) 1) 脊髄反射について説明する。 2) 脳幹 (中脳、橋、延髄) の機能について説明する。 3) 視床下部の機能について説明する。 4) 大脳の構造と機能について概説する。 5) 大脳皮質の構造と機能について概説する。 2 感覚 1) 感覚の分類および内容について説明する。 2) 感覚の一般的特性について説明する。 3) 特殊感覚 (味覚以外) について説明する。
授業形式	
講義・実習を通して学ぶ。 講義では、パワーポイントおよび板書を用いた教育を行う。 実習においては、循環に関して相互実習を行う。	
教科書・参考書	
歯科衛生士テキスト 生理学 (覚道幸男他・学建書院)	
評価の方法	
単位試験により総合的に評価する。 単位試験 (四肢択一方式) : 100%	
備考	
事前学習により各回の気になる項目を列举し、講義中や事後学習で整理するようにする事が望ましい。定期試験、今後の臨床科目講義や歯科衛生士国家試験のためにしっかりとノート作成すること。	

科目名	生化学
学 年	1 学年
単 位	1 単位
時間数	1 6 時間（4 回）
学習目標	
分子レベルで進歩する歯科医学を生涯にわたり自己研鑽し、歯科衛生士業務をとおして歯科医療に応用する姿勢を醸成するために、 生命現象を連続した化学反応として捉える習慣（生化学的思考）とその習慣を生涯にわたり持ち続ける意欲を身につけるとともに、その思考の基礎となる生命維持に必要な生体分子（特に糖質、脂質、タンパク質）の代謝過程や代謝産物の生体内機能を理解する。	
授業計画	
I 編 人体の代謝と機能 1 章 人体の構成要素 細胞の役割 人体構成成分の構造と種類 2 章 人体における化学反応 3 章 糖質、脂質、タンパク質の代謝 消化、吸収、代謝の全体像 糖質と脂質の代謝－主要なエネルギー基質－ タンパク質とアミノ酸の代謝 4 章 糖質、脂質、タンパク質代謝の相互関連 5 章 遺伝子とタンパク質合成 DNA と遺伝子 遺伝子の発現とタンパク質の合成 6 章 人体における恒常性の維持	
授業形式	
講義（1.5 時間×4 回）、演習（1.5 時間×4 回：グループワーク）	
教科書・参考書	
歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能2 生化学・口腔生化学（医歯薬出版）	
評価の方法	
筆記試験（四肢択一問題）	
備考	
将来受験する歯科衛生士国家試験のために有用なノートを丁寧に作成して下さい。 グループワークをとおして協働の重要性を体感して下さい。	

科目名	栄養学
学 年	1 学年
単 位	1 単位
時間数	1 6 時間（4 回）
学習目標	
健康を支える三つの柱が栄養、運動および休養であることを踏まえ、人々の wellness に広く貢献する歯科衛生士としての職責を自覚し、生涯にわたりそれを実践するために、栄養素の機能、食生活のあり方、ライフステージに応じた栄養についての基本的知識を修得する。	
授業計画	
1. 栄養素の種類とはたらき 五大栄養素（糖質、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラル）の種類とはたらき 五大栄養素の消化・吸収 2. 健康と栄養 食生活を取り巻く施策 日本人の食事摂取基準（エネルギーと各栄養素） 食品の安全 3. 食事と食品 食事バランスガイド 食品群の分類と特徴 食品の機能、食品の表示 4. ライフステージと栄養 母性栄養 小児期の栄養 成人期の栄養 高齢期の栄養	
授業形式	
講義、演習（4 回）	
教科書・参考書	
歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能3 栄養学（医歯薬出版）	
評価の方法	
筆記試験（四肢択一問題）	
備考	
将来受験する歯科衛生士国家試験のために有用なノートを丁寧に作成して下さい。 日常生活をとおして、自身の健康維持・増進に役立てて下さい。	

科目名	口腔解剖・組織学
学 年	1 年次
単 位	3 単位
時間数	6 0 時間（1 5 回）
学習目標	
口腔解剖学は歯科医学の基礎をなす学問分野である。歯の形態（永久歯、乳歯）と機能、歯列と咬合および歯の異常を肉眼レベルで理解する。また、光学顕微鏡レベルでの歯系組織の構造と機能、発生過程および加齢変化を理解する。	
授業計画	
1. 総論（方向用語、歯の記号、歯式、歯と歯周組織の概略） 2. 総論（解剖学的名称、歯に共通する形態的特徴、比較解剖学） 3. 永久歯（切歯・犬歯） 4. 永久歯（小臼歯・大臼歯） 5. 永久歯（大臼歯） 6. 乳歯 7. 歯の異常 8. 歯列と咬合・歯の発生 9. 歯の発生 10. エナメル質・象牙質 11. 象牙質・歯髄・セメント質 12. 歯根膜・歯槽骨 13. 歯肉 14. 顕微鏡実習 15. 総まとめ	
授業形式	
講義と実習	
教科書・参考書	
歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学（医歯薬出版）	
評価の方法	
筆記試験（単位試験 70%、小テスト 20%） 実習スケッチ点（10%）	
備考	

科目名	口腔生理学		
学 年	1 学年		
単 位	1 単位		
時間数	2 4 時間（6 回）		
学習目標			
多様な機能をもつ総合咀嚼器官の働きを、口腔系諸器官の構造と機能の両面から考察して味覚を含む口腔感覚、咀嚼運動とその基本である下顎反射のメカニズム、唾液および唾液腺の機能についての基礎的知識を理解し説明することができる。			
授業計画			
1 回目 生理学実習（循環に関する実習） 1 循環 1) 脈拍数の測定について相互実習を行う。 2) 血圧の測定（触診法、聴診法）について相互実習を行う。 2 回目 歯および歯の歯周組織の生理・咬合および顎運動（教科書 p112～p126） 1 歯および歯周組織の生理 1) 歯の硬組織の構造と物理化学的な性状について説明する。 2) 歯髄の構造と機能について説明する。 3) 歯周組織の構造について説明する。 2 歯および歯周組織の生理 1) 歯の硬組織の構造と物理化学的な性状について説明する。 2) 歯髄の構造と機能について説明する。 3) 歯周組織の構造について説明する。 3 咬合および顎運動 1) 各種下顎位について説明する。 2) 矢状面における切歯点の運動について説明する。 3) 水平面における切歯点の運動について概説する。 4 咬合および顎運動 1) 各種下顎位について説明する。 2) 矢状面における切歯点の運動について説明する。 3) 水平面における切歯点の運動について概説する。 3 回目 咀嚼および吸啜（教科書 p128～p135） 1 咀嚼 1) 咀嚼の意義と目的について概説する。 2) 咀嚼周期について説明する。 3) 咀嚼能率について説明する。 4) 咀嚼筋の構造と機能について説明する。		5) 下顎反射について説明する。 6) 咬合力と咀嚼力について説明する。 7) 口唇、舌の働きについて概説する。 2 吸啜 1) 吸啜反射について説明する。 4 回目 嚥下および嘔吐（教科書 p136～p139） 1 嚥下 1) 咽頭・喉頭の構造について説明する。 2) 嚥下反射について説明する。 3) 無歯顎者における嚥下について概説する。 4) 異常嚥下について概説する。 2 嘔吐 1) 嘔吐反射について説明する。 5 回目 唾液腺および唾液（教科書 p140～p148） 1 唾液腺および唾液 1) 唾液腺の構造について説明する。 2) 唾液の生成機構について説明する。 3) 唾液分泌の神経機構について説明する。 4) 唾液の性状と組成について説明する。 5) 唾液の働きについて説明する。 6) 唾液と歯科臨床の関連性について説明する。 6 回目 口腔感覚・味覚・発声および発音（教科書 p150～p170） 1 口腔感覚 1) 口腔粘膜の感覚点と感覚受容について説明する。 2) 歯根膜の感覚について説明する。 3) 咬合・歯の部位感覚の意義について説明する。 4) 口腔の深部感覚について概説する。 5) 口腔の痛覚の意義と特徴について説明する。 2 味覚 1) 味覚受容器の構造と機能について説明する。 2) 基本味の特性について説明する。 3) 味覚閾値について説明する。 4) 味盲について説明する。	

5) 味覚の神経機構について説明する。 3 発声および発音 1) 発声器官の構造について説明する。 2) 発声の機構について概説する。 3) 音声の性状について説明する。	4) 音声の種類について概説する。 5) 言語音の形成について説明する。 6) 感覚性および運動性の言語中枢について概説する。 7) 歯科臨床と発音障害について説明する。
授業形式	
講義・実習を通して学ぶ。 講義では、パワーポイントおよび板書を用いた教育を行う。	
教科書・参考書	
歯科衛生士テキスト 生理学（覚道幸男他・学建書院）	
評価の方法	
単位試験および実習レポートにより総合的に評価する。 単位試験（四肢択一方式）：90% 実習レポートおよび授業態度：10%	
備考	
事前学習により各回の気になる項目を列举し、講義中や事後学習で整理するようにすることが望ましい。定期試験、今後の臨床科目講義や歯科衛生士国家試験のためにしっかりとノート作成すること。	

科目名	口腔生化学
学 年	1 学年
単 位	1 単位
時間数	1 6 時間（4 回）
学習目標	
分子レベルで進歩する歯科医学を生涯にわたり自己研鑽し、歯科衛生士業務をとおして歯科医療に応用するために、 生命現象を連続した化学反応として捉える習慣（生化学的思考）とその習慣を生涯にわたり持ち続ける意欲を身につけるとともに、口腔諸組織や唾液の成分を知り、口腔の二大疾患であるう蝕と歯周疾患の病因を理解する。	
授業計画	
Ⅱ編 口腔の代謝と機能 1 章 歯と歯周組織の生化学 結合組織の組成 歯の組成 2 章 硬組織の生化学 カルシウムの恒常性維持 骨形成と骨吸収 歯の脱灰と再石灰化 3 章 唾液の生化学 唾液の成分と機能 4 章 プラークの生化学 プラークの形成 プラークによるう蝕発症機構 プラークによる歯周疾患発症機構	
授業形式	
講義（1.5 時間×4 回）、演習（1.5 時間×4 回：グループワーク）	
教科書・参考書	
歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能2 生化学・口腔生化学（医歯薬出版）	
評価の方法	
筆記試験（四肢択一問題）	
備考	
将来受験する歯科衛生士国家試験のために有用なノートを丁寧に作成して下さい。 グループワークをとおして協働の重要性を体感して下さい。	

科目名	病理学		
学 年	1 年次		
単 位	2 単位		
時間数	4 8 時間（1 2 回）		
学習目標			
病理学では病気とは何かを学びます。すなわち病気とは正常な形態や機能を逸脱した状態で、病気の原因（病因）、どのようにして発生するのは（発生機序）、どの部位に発生しやすいのか（好発）、どのような特徴があるのか（所見）、病気の結果どうなるのか（予後）について学びます。病気の概念を学んだのち、口腔顎顔面領域に発生する病気（疾患）について理解することで、臨床上での予防と治療へとつなげることを目標とします。			
授業計画			
1．病理学概論・病因論 先天異常		6．歯の沈着物と着色 う蝕	
2．循環障害		7．歯髄・根尖部歯周組織・顎骨の病変	
3．代謝障害 増殖と修復		8．歯周組織の病変	
4．炎症と免疫		9．歯の異常	
5．腫瘍		1 0．歯の機械的損傷・化学的損傷 口腔の創傷治癒	
		1 1．口腔領域の粘膜病変・奇形・嚢胞・腫瘍	
		1 2．唾液腺の疾患	
総復習			
授業形式			
講義			
教科書・参考書			
新・歯科衛生士教育マニュアル 病理学：クインテッセンス出版 第3版 病理学総論にもとづく口腔病理学：永末書店（参考書籍）			
評価の方法			
筆記試験			
備考			
講義は主に教科書とスライドを用いて行います。教科書を元に、スライドや口頭で補足しながら説明します。解剖学や生理学など、他科目にも関連する内容がありますので、他科目の復習も大切にして下さい。			

科目名	微生物学
学 年	1 年次
単 位	2 単位
時間数	4 8 時間（1 2 回）
学習目標	
1. 感染症の種類や発病について、概要を説明できる。 2. 微生物の分類、形態、機能、増殖、遺伝、病原性について理解し、感染予防や治療法について説明できる。 3. 微生物に対する免疫担当細胞の役割、免疫の一連の流れを理解し、生体に備わる防御機構を説明できる。 4. 口腔微生物の種類と発病について説明できる。 5. 細菌を実際にハンドリングすることにより、無菌操作の概念と技能を習得する。	
授業計画	
1. 微生物学総論 2～3. 細菌 4. ウイルス 5. 真菌，原虫 6. 滅菌と消毒 7. 口腔細菌 8. 免疫 9～12. 微生物学実習	
授業形式	
講義，実習	
教科書・参考書	
疾病の成り立ち及び回復過程の促進 2 微生物学（医歯薬出版）	
評価の方法	
科目試験（90%），実習レポート（10%）を総合して評価する	
備考	

科目名	薬理学
学 年	1 年次
単 位	2 単位
時間数	3 2 時間（8 回）
学習目標	薬理学とは薬物と生体との特異的な相互作用を研究する学問である。疾病の治療や予防、診断における薬物の知識を習得し、診療において応用できる衛生士を養成する。
授業計画	総論 1 薬物の作用（薬物療法、薬理作用、作用機序、用量反応曲線） 2 薬物動態（吸収、分布、代謝、排泄、パラメーター） 3 薬物の適法方法の種類と特徴（適用方法、生物学的利用能） 4 薬物の作用に影響を与える因子（連用、併用、相互作用） 5 薬物の副作用 ライフステージと薬物の注意点 6 薬物の取り扱い（剤形、処方箋、調合、保存、法律） 各論 7 ビタミン・ホルモン 8 末梢神経系に作用する薬物（交感神経作用薬、副交感神経作用薬、運動神経作用薬） 9 中枢神経系に作用する薬物（全身麻酔薬、催眠薬、抗不安薬、抗痙攣薬、向精神薬） 10 循環器系に作用する薬物（高血圧/不整脈/狭心症/脂質異常症 治療薬） 11 呼吸器系/消化器系/免疫系に作用する薬物 12 血液に作用する薬物（止血薬、抗凝固薬） 13 悪性腫瘍/代謝性疾患に作用する薬物（抗悪性腫瘍薬、糖尿病/骨粗鬆症 治療薬） 14 抗炎症薬、鎮痛薬、局所麻酔薬 15 抗感染症薬、消毒薬、漢方薬 16 齦蝕/歯内治療/歯周疾患/顎・口腔粘膜に関する薬物
授業形式	国家試験に向けた内容、薬物を中心に、プリントやパワーポイントで講義内容を補足し、他の教科との関連も説明しながら、より深い理解、知識の獲得を目指す。
講義形式	
教科書・参考書	疾病の成り立ち及び回復過程の促進 3 薬理学（医歯薬出版）
評価の方法	
小テスト(20点)・中間テスト(30点)、単位試験(50点)で評価する。	
備考	小テスト：4 択問題（初日・中間・最終日を除く、計 5 回で行う） 中間テスト：記述を含む（総論終了後の次の講義で行う） 単位試験：マーク（令和 6 年度）

科目名	医学概論（内科学含む）
学 年	1 年次
単 位	1 単位
時間数	20 時間（5 回）
学習目標	
歯・口腔領域は全身の一部であり、全身疾患の部分症状が口腔に現れたり、全身疾患が歯・口腔疾患に影響を及ぼすことがある。逆に歯周病のように口腔疾患が全身疾患に影響を及ぼすこともある。また高齢化社会を迎え、全身疾患を有する患者の歯科診療の機会が増大している。そこで、歯科医療、口腔ケアに関わる歯科衛生士も全身疾患の基礎知識を理解することは重要であり、特に歯科医療に関連の深い全身疾患を主体に学ぶ。	
授業計画	
1. 肝疾患、甲状腺疾患、心身症 2. 糖尿病、脳血管障害、神経疾患、リウマチ・アレルギー性疾患 3. 高血圧・心疾患、呼吸器疾患、消化管疾患 4. 感染症、血液疾患、腎疾患 5. 口腔内科学	
授業形式	
講義：プリント、パワーポイント使用	
教科書・参考書	
歯科衛生士のための全身疾患ハンドブック（医師薬出版）	
評価の方法	
筆記試験	
備考	

科目名	衛生学・公衆衛生学
学 年	1 年次
単 位	2 単位
時間数	4 0 時間（10 回）
学習目標	
本講義の学習目標は次の 3 点である. ① 自己の健康観の構築 ② 健康増進および疾病予防を達成するための方法論 ③ わが国の保健水準および公衆衛生活動の現状の把握	
授業計画	
①健康の概念，予防の考え方 ②人口問題 ③環境衛生 ④感染症予防および食品衛生 ⑤疫学 ⑥母子保健および学校保健 ⑦産業保健，地域保健および成人保健	
授業形式	
講義	
教科書・参考書	
デンタルスタッフの衛生学・公衆衛生学（医歯薬出版）	
評価の方法	
筆記試験	
備考	

科目名	口腔衛生学Ⅰ
学 年	1 年次
単 位	2 単位
時間数	40 時間（10 回）
学習目標	
個人および集団を対象とした口腔の健康の保持増進と歯科疾患の予防について、問題発見解決型志向を目指した口腔衛生学的思考能力および実践能力の習得。	
授業計画	
① 口腔衛生学概論 ② 歯と口腔環境 ③ 歯口清掃 ④ う蝕の予防（う蝕発生要因・う蝕発生メカニズム） ⑤ う蝕の予防（う蝕活動性とう蝕リスク・発生要因別う蝕予防法） ⑥ う蝕の予防（フッ化物によるう蝕予防） ⑦ 歯周疾患の予防 ⑧ 歯周疾患のリスクファクター ⑨ 不正咬合の予防・口臭の予防 ⑩ 口腔疾患の疫学	
授業形式	
講義	
教科書・参考書	
新歯科衛生士テキスト 口腔衛生学ー口腔保健統計を含むー（学建書院）	
評価の方法	
筆記試験	
備考	

科目名	口腔衛生学Ⅱ
学 年	1 年次
単 位	2 単位
時間数	3 2 時間（8 回）
学習目標	
個人および集団を対象とした口腔の健康の保持増進と歯科疾患の予防について，問題発見解決型志向を目指した口腔衛生学的思考能力および実践能力の習得。	
授業計画	
① } 口腔保健の現状（村田先生） ② } 母子歯科保健・学校歯科保健（村田先生） ③ } 産業歯科保健・成人歯科保健・老人歯科保健（村田先生） ④ } ⑤ 実習説明（日吉先生） ⑥ 実習 1：口腔内診査（村田先生・日吉先生） ⑦ 実習 2：う蝕活動性試験・歯口清掃（村田先生・日吉先生） ⑧ まとめ（日吉先生）	
授業形式	
実習および講義	
教科書・参考書	
新歯科衛生士テキスト 口腔衛生学－口腔保健統計を含む－（学建書院）	
評価の方法	
筆記試験	
備考	

科目名	衛生行政
学 年	2 年次
単 位	1 単位
時間数	1 6 時間（4 回）
学習目標	
将来保健医療福祉の担い手として、住民・患者に質の高い生活を送るうえで必要なサービスが提供できるよう、歯科領域に関係する社会制度および社会状況について学習し、理解することを目標とする。	
授業計画	
3 時間の講義を 4 回実施する。概ね下記の予定で行う。 ○ 第 1 回 わが国の医療制度と歯科衛生士（1 / 2） はじめに、わが国の医療制度、医療法、歯科医師法、歯科衛生士法 ○ 第 2 回 わが国の医療制度と歯科衛生士（2 / 2） 歯科衛生士法（つづき）、歯科技工士法 ○ 第 3 回 医療関係職種 歯科医療と関わる医療関係者、保健師助産師看護師法、臨床検査技師等に関する法律、診療放射線技師法、薬剤師法、その他の医療関係職種に係る法律 ○ 第 4 回 その他の関係法規 地域包括ケアシステム、地域保健に関連する法律、歯科口腔保健の推進に関する法律、薬事に関連する法規、その他の衛生法規	
授業形式	
講義形式	
教科書・参考書	
歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に係わる人間と社会の仕組み 2 「保健・医療・福祉の制度」医歯薬出版	
評価の方法	
筆記試験	
備考	
インターネットを用いて必要な情報を自分自身で入手できる能力や環境があると、さらに理解を深めることができるので、その点準備をお願いします。	

科目名	社会福祉
学 年	2 年次
単 位	1 単位
時間数	1 6 時間（4 回）
学習目標	
社会福祉にまつわる動向（制度やサービス）を学ぶことによって、より歯科衛生士としてのあり方について学ぶ。	
授業計画	
社会学的な視角をより現場で組み立てるために、社会福祉の動向（制度やサービス）についてわかりやすく解説を行いたい。	
授業形式	
講義形式（場合によっては視聴覚教材を使用する場合もある）	
教科書・参考書	
歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に係わる人間と社会の仕組み 2 「保健・医療・福祉の制度」医歯薬出版	
評価の方法	
筆記試験	
備考	

科目名	歯科衛生士概論Ⅰ
学 年	1 年次
単 位	1 単位
時間数	1 6 時間（4 回）
学習目標	
高齢化に伴い疾病構造が変化してきています。国民の衛生知識の向上にともない歯と全身との関係等歯の健康に対する国民の関心が高まるにつれ、保健指導や予防処置等の業務を通じて、国民の健康づくりに従事する歯科衛生士の役割が重要になってきています。歯科衛生士としての知識、技術、倫理等の概要について説明する。	
授業計画	
①歯科医療（臨床）とは ②医の倫理とインフォームドコンセント ③歯科医療の特異性 ④歯科患者の特徴 ⑤歯科疾患の概要 ⑥歯科診療の流れの概要 ⑦滅菌と消毒 ⑧歯科材料 ⑨歯科臨床とエックス線	
授業形式	
講義	
教科書・参考書	
歯科臨床概論	
評価の方法	
筆記試験	
備考	

科目名	歯科衛生士概論Ⅱ
学 年	1 年次
単 位	1 単位
時間数	1 6 時間（4 回）
学習目標	
歯科衛生士の業務を実践して人々の健康づくりを支援するために、保健医療人としての基本的態度を理解し、多様な科目において知識・技術を習得する態度および倫理的思考法の基礎を習得する。	
授業計画	
1 歯科衛生学とは 歯科衛生士法と歯科衛生業務 2 歯科衛生士の義務 歯科衛生士として求められる技能 3 歯科衛生士と医療倫理 歯科衛生士の動向 4 歯科衛生活動の場 歯科衛生士と組織	
授業形式	
講義 演習	
教科書・参考書	
最新歯科衛生士教本「歯科衛生学総論」（医歯薬出版）	
評価の方法	
筆記試験	
備考	

科目名	保存修復学
学 年	2 年次
単 位	1 単位
時間数	2 4 時間（6 回）
学習目標	
う蝕に代表される歯の硬組織疾患や形態異常の発生から病変の移行、そして損なわれた形態や機能、審美性を改善、再発を予防する歯科治療の内容を理解することで歯科衛生士として必要な知識を習得する。 また実際の診断法、治療方法を理解することで歯科衛生士として意図を持ち、診療補助業務に役立つ知識、技術を習得する事を目標とする。 保存修復学を臨床科目の基礎として位置付け、広く臨床応用できるよう理解を深める。	
授業計画	
1. 保存修復学総論 2. う蝕の分類・発生・診査・診断 3. 歯髄保存療法 4. 直接修復法 5. 間接修復法 6. ホワイトニング、審美修復 7. 実習	
授業形式	
教科書とプリントを教材として、PC によるスライドプレゼンテーションを利用して行う。講義	
教科書・参考書	
歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学（医歯薬出版）	
評価の方法	
筆記試験（多肢選択式、国家試験出題形式に準じる）	
備考	

科目名	歯内治療学
学 年	2 年次
単 位	1 単位
時間数	2 4 時間（6 回）
学習目標	歯髄疾患および根尖性歯周疾患の正しい診断と適切な治療方針を理解し、診療補助者としての的確な行動および患者への説明が出来るように知識および技能を習得する。
授業計画	学生の行動目標 1. 歯内治療（療法）学の内容、歯内治療に関する歯の解剖および歯周組織の特徴を説明できる。 歯髄疾患の概要、原因、進行および分類を説明できる。 歯髄疾患の検査法を説明できる。 2. 各種歯髄疾患の症状の説明および診断ができる。歯髄疾患の鑑別診断ができる。 歯髄疾患の治療法：歯髄保存療法（歯髄鎮痛消炎、覆髄）を説明できる。 歯髄疾患の治療法：歯髄一部除去療法（生活歯髄切断法）とアペキシゲネーシスを説明できる。 3. 歯髄疾患の治療法：歯髄全部除去療法（直接抜髄法；麻酔抜髄法）を説明できる。 根尖性歯周疾患の概要、原因、進行および分類を説明できる。 根尖性歯周疾患の検査法および治療方針を説明できる。 4. 感染根管の概要を説明できる。 感染根管の基本的な治療法・術式を説明できる。 5. 根管の消毒（根管消毒薬）および根管内細菌培養検査を説明できる。 根管充填の概要および術式等を説明できる。 アペキシフィケーションを説明できる。 6. 歯の外傷および外科的歯内療法を説明できる。 歯内治療における安全対策について説明できる。
授業形式	
講義	
教科書・参考書	クインテッセンス出版 新歯科衛生士教育マニュアル 歯内治療 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学
評価の方法	
筆記試験	
備考	

科目名	歯周病学
学 年	2 年次
単 位	1 単位
時間数	2 4 時間（6 回）
学習目標	
歯周療法の基礎知識、臨床への応用力を修得する。	
授業計画	
1. 歯周病とは 歯周組織の解剖・組織・生理、歯周病の病態 2. 歯周病のリスクファクター、歯周病の検査 3. 歯周病の分類 4. 歯周基本治療、薬物療法 5. 歯周外科 6. ペリオドンタルメディシン、根分岐部病変、メンテナンス	
授業形式	
スライドによる視覚素材 ホワイトボードを用いての記述 講義	
教科書・参考書	
永末 歯科衛生士講座歯周病学 第6 版	
評価の方法	
筆記試験、多岐選択試験（9 0 %）	
小テスト（1 0 %）	
備考	
R5 年度評価 単位試験 96 点 小テスト 4 点	

科目名	歯科補綴学
学 年	2 年次
単 位	1 単位
時間数	2 8 時間（7 回）
学習目標	
歯科補綴とは、歯質・歯牙・歯列・顎骨の欠損をクラウン、ブリッジ、義歯、インプラントなどの人工装置を用いて補い、障害された顎口腔系の機能と、顔貌の審美性を回復・改善させることである。補綴治療を円滑に進め、治療後に補綴装置を口腔内で維持させ続けるためには、専門的知識を備えた歯科衛生士の協力が重要である。本講義では、歯科補綴学の基本的知識を理解し、補綴治療での診療補助や補綴装置を装着後の口腔ケアなどを行えるように知識を習得することを目標とする。	
授業計画	
① 歯科補綴の概要 ② 補綴歯科治療の基礎知識 ③ クラウン・ブリッジの種類と治療の流れ ④ 全部床義歯の種類と治療の流れ ⑤ 部分床義歯の種類と治療の流れ ⑥ インプラント治療と特殊な補綴装置 ⑦ 補綴歯科治療における器材の管理	
授業形式	
講義	
教科書・参考書	
医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯科補綴学	
評価の方法	
筆記試験や小テスト、受講態度などで評価	
備考	
歯科補綴学では解剖学、歯科材料学などの知識が不可欠であるため、該当科目の教科書なども参考にすると良い。	

科目名	口腔外科学		
学 年	2 年次		
単 位	1 単位		
時間数	2 8 時間（7 回）		
学習目標			
口腔外科疾患について学び、その処置および対応について理解する。また、清潔・不潔の区別ができ、適切な口腔外科処置の対応を学ぶ。治療術式・器具について理解し、的確な処置を行えるように履修する。			
授業計画			
1 口腔外科と全身疾患との関連 2 先天異常（唇顎口蓋裂）・顎変形症 3 外傷・損傷 4 口腔粘膜疾患 5 口腔領域の炎症性疾患 6 顎関節疾患 7 嚢胞性疾患 8 腫瘍・前癌病変・腫瘍類似疾患 9 唾液腺疾患 10 神経疾患 11 血液疾患と出血性素因 12 口腔顔面の症候群 13 診察と診断 14 滅菌と消毒 15 創傷処置 16 抜歯術 17 口腔外科小手術と診療介助 18 口腔出血に対する処置法 疾患・介助について講義および画像を供覧する。 口腔外科診療における要点等を概説する。			
授業形式			
講義とパワーポイントによる画像閲覧、抜歯器具の確認			
教科書・参考書			
歯科衛生学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学（医歯薬出版）			
評価の方法			
筆記試験			
備考			

科目名	小児歯科学
学 年	2 年次
単 位	1 単位
時間数	2 4 時間（6 回）
学習目標	
小児の口腔領域の正常な発育をはかるために、 ・ 健全な発育を育成するための理論や方法を習得する。 ・ 健全な発育を障害する異常や疾患の予防と治療について習得する。 ・ 小児歯科診療における歯科衛生士の役割について理解する。	
授業計画	
1) 心身の発育、小児の生理的特徴、顔面頭蓋の発育 2) 歯の発育とその異常、歯列・咬合の発育と異常 乳歯・幼若永久歯の特徴、乳歯・幼若永久歯齲蝕、齲蝕予防 3) 小児歯科診療における補助（小児の対応法、歯冠修復） ※復習テスト1回目（1・2回目の内容） 4) 小児歯科診療における補助（歯内治療、歯周疾患、粘膜疾患） 5) 小児歯科診療における補助（外科処置、外傷、咬合誘導） ※復習テスト2回目（3・4回目の内容） 6) 小児歯科診療における補助（障碍児の治療および対応法、総括）	
授業形式	
パワーポイントを用いて講義を行う。	
教科書・参考書	
クインテッセンス出版株式会社 新・歯科衛生士教育マニュアル 小児歯科学	
評価の方法	
復習テスト、定期試験で総合的に評価する。 10% 、 90% ←令和6年度	
備考	

科目名	歯科矯正学
学 年	2 年次
単 位	1 単位
時間数	2 4 時間（6 回）
学習目標	
歯科矯正の基礎と、矯正診療における歯科衛生士の役割について理解させる	
授業計画	
1. 歯科矯正学概論 2. 成長、発育、咬合、口腔習癖 3. 矯正治療の生物力学 矯正診断に関する知識 4. 矯正装置について 5. 歯科矯正治療の実際 6. 歯科矯正における歯科衛生士の役割	
授業形式	
講義	
教科書・参考書	
歯科衛生学シリーズ 歯科矯正学 第2版（医歯薬出版）	
評価の方法	
筆記試験	
備考	

科目名	歯科放射線学
学 年	2 年次
単 位	1 単位
時間数	2 4 時間（6 回）
学習目標	
エックス線を含む放射線に関する正しい知識を持ち、医療におけるエックス線の役割を認識することで、歯科治療におけるエックス線の重要性を理解してもらう。その上で診療補助内でのエックス線撮影装置の取り扱い、そして口外法および口内法撮影時の歯科衛生士としての手技と役割を修得する事を旨とする。	
授業計画	
1. 放射線とエックス線 2. 歯科用エックス線装置/エックス線画像の形成 3. エックス線画像の形成/撮影法（口内法） 4. 撮影法（口内法）/撮影法（口外法） 5. フィルム処理と取り扱い/デジタルエックス線システム 6. 撮影相互実習 7. 撮影相互実習/画像解説/放射線生物学 8. 放射線生物学/放射線防護	
授業形式	
講義 スライド 実習	
教科書・参考書	
わかりやすい歯科放射線学（学建書院）	
評価の方法	
筆記試験	
備考	

科目名	麻酔・全身管理学（救急蘇生法含む）
学 年	2 年次
単 位	1 単位
時間数	2 0 時間（5 回）
学習目標	
歯科麻酔学とは、歯科治療や手術中の痛みを取り除くだけでなく、安全で快適な歯科医療を行うための全身管理学である。歯科治療時やスケーリング中にも全身的偶発症が発生する可能性がある。そこで、歯科衛生士にも血圧や脈拍などのバイタルサインの評価、救急蘇生を含む緊急時の対応について、その基礎を理解すると同時に、適切な診療補助行為が求められる。さらに、近年、歯科においても循環器系を中心とした全身的な疾患をもった患者の受診が増加している。これら患者の歯科治療時における全身的な管理の補助が求められる。	
授業計画	
講義内容は以下の通りである。歯科麻酔学の必要性、基本的な知識の習得を過去の国家試験問題を取り入れて行う予定である。 ・ 歯科麻酔学概論 ・ 局所麻酔 ・ バイタルサイン・生体情報モニターの読み方 ・ 有病者の歯科治療 ・ 精神鎮静法 ・ 全身麻酔法 ・ 歯科治療時の全身的合併症 ・ 救急救命処置 また、実習はトレーニング用マネキンを使用し一次救命処置（胸骨圧迫、A E D の使用）を行う。	
授業形式	
講義 4 回	
実習 1 回	
教科書・参考書	
歯科衛生士テキスト 歯科麻酔学・全身管理学（学建書院）	
評価の方法	
筆記試験 1 0 0 点満点 6 0 点以上。合格一次救命処置実習試験 1 0 0 点満点 1 0 0 点合格。両試験に合格すること	
備考	
実習では、髪の毛は束ね、動きやすい服装・靴を着用すること	

科目名	総合領域Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ
学 年	3 年生
単 位	5 単位
時間数	1 0 4 時間（2 6 回）
学習目標	
国家試験対策として専門基礎および専門分野の復習講義を実施し、知識の再確認に努める。	
授業計画	
①専門基礎講義 （解剖学 口腔解剖学 生理学 生化学 病理学 微生物学 薬理学 衛生学 口腔衛生学Ⅰ、Ⅱ） ②専門分野講義 （保存修復学 歯内治療学 歯周病学 歯科補綴学 口腔外科学 小児歯科学 歯科矯正学 歯科放射線学 麻酔学 臨床検査 高齢者歯科学 障害者歯科 歯科予防処置 歯科保健指導 歯科診療補助）	
授業形式	
講義	
教科書・参考書	
各教科書	
評価の方法	
単位試験	
備考	

科目名	歯科予防処置論 I
学年	1 年次
単位	2 単位
時間数	4 0 時間（1 0 回）
学習目標	
1． 歯科予防処置についての専門知識と技術、及び態度を習得する目的を理解する為にその概要を学ぶ。 2． 歯周病を予防し、歯と口腔の健康を維持増進させるための専門的な知識、基本操作及び態度を習得する。	
授業計画	
1	【講義】 歯科予防処置論の概要・口腔の構造と歯周組織について
2	【講義】 口腔内の付着物沈着物について・歯周病について
3	【講義】 歯周疾患の指数・口腔内検査について
4	【講義・実習】 インスツルメントについて
5	【実習】 インスツルメントの基本操作法について
6	【実習】 エキスプローラー操作法
7	【実習】 歯周ポケット検査法
8	【実習】 シックル型スケーラー操作法
9	【実習】 キュレット型スケーラー操作法
1 0	実技試験
授業形式	
講義・実習	
教科書・参考書	
歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」第2版（医歯薬出版）	
評価の方法	
筆記試験と、実技試験の両試験に合格すること	
備考	

科目名	歯科予防処置論Ⅱ
学年	2 年次
単位	2 単位
時間数	60 時間（15 回）
学習目標	
う蝕予防処置の目的と内容を理解し、薬剤・材料を適切に取り扱う事が出来る。 う蝕を予防し、歯・口腔の健康を維持増進させるために、専門的な知識、技術、及び態度を習得する。	
授業計画	
1	う蝕予防処置とは・う蝕について・フッ化物、フッ化物の毒性について
2	フッ化物応用方法・フッ化物の集団応用・その他のフッ化物応用
3	フッ化物局所応用実習 1
4	フッ化物局所応用実習 2
5	う蝕活動性試験・予防プログラム・バイオフィルム除去
6	小窩裂溝填塞法について・模型実習（下顎）
7・8	小窩裂溝填塞法模型実習（上顎）・カリオグラム
9・10	小窩裂溝填塞法相互実習
11・12	う蝕予防の為の歯面清掃模型実習（エアポリッシャー・サブソニックブラシ）
13・14	う蝕予防の為の歯面清掃相互実習（エアポリッシャー・サブソニックブラシ）
15	う蝕予防の為の歯面清掃相互実習（エアポリッシャー）
授業形式	
講義・実習	
教科書・参考書	
歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」第2版（医歯薬出版）	
評価の方法	
筆記試験	
備考	

科目名	歯科予防処置論Ⅲ
学年	1 年次
単位	2 単位
時間数	6 4 時間（1 6 回）
学習目標	
1. 安全なインスツルメンテーションを実施するために、術者と患者の位置関係を理解するとともに、部位別のスケーリング操作法、口腔内検査法を習得する。 2. 手用スケーラーのシャープニング法を習得する。 3. 歯面研磨・歯面清掃の基本操作を習得する。 4. 超音波スケーラー・エアスケーラーの基本操作を習得する。	
授業計画	
1	基本設定について
2	上顎前歯部のマネキン実習（シッケル型・キュレット型）
3	下顎前歯部のマネキン実習（シッケル型・キュレット型）
4	下顎左側臼歯部のマネキン実習（キュレット型）
5	下顎右側臼歯部のマネキン実習（キュレット型）
6	上顎左側臼歯部のマネキン実習（キュレット型）
7	上顎右側臼歯部のマネキン実習（キュレット型）
8	歯周ポケット検査相互実習（CPI）
9	全顎のマネキン実習
10-①	【講義】シャープニング
10-②、11-①	手用スケーラーのシャープニング実習
11-②、12-①	実技試験
12-②、13-①	【講義】超音波スケーラー・エアスケーラーについて
13-②～15-①	超音波スケーラー・エアスケーラーのマネキン実習
15-②	【講義】歯面研磨・歯面清掃について
16	歯面研磨・歯面清掃のマネキン実習
授業形式	
講義・実習	
教科書・参考書	
歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」第2版（医歯薬出版）	
評価の方法	
筆記試験と、実技試験の両試験に合格すること	
備考	

科目名	歯科予防処置論Ⅳ		
学年	2 年次		
単位	3 単位		
時間数	9 6 時間 （2 4 回）		
学習目標			
基礎実習とマネキン実習で身につけた技術を使って相互実習をする事で、実践で活かせる技術を習得する。又、術者役、補助者役、患者役の経験を通じて、それぞれの立場での心構えや技術を習得する。 口腔内診査の方法を理解し、口腔内を観察できる能力を養う。 超音波スケーラー・エアースケーラーの操作法を習得する。 PMT Cの方法を習得する。			
授業計画			
1	相互実習の為の基礎知識、感染予防、偶発事故の予防とその対策	13-②,14-①	歯面研磨実習（臼歯部）
2	実習事前準備・口腔内診査について インスツルメンテーション確認	14-②,15-① 15-②,16-① 16-②,17-①	上顎右側臼歯部の相互実習 上顎左側臼歯部の相互実習 マネキン実習③
3	口腔内診査の相互実習	17-②,18-①	超音波スケーラー実習
4	上顎前歯部の相互実習		エバチップ説明
5	下顎前歯部の相互実習	18-②,19-①	実技試験に向けての
6	マネキン実習①		マネキン実習
7 - ①	超音波・エアースケーラー・PMT C 実習説明	19-②,20-① 20-②,21-①	歯周組織検査実習 PMT C・歯面清掃
7-②,8-①	超音波・エアースケーラー相互実習	21 - ②	実技試験練習
8-②,9-①	超音波・エアースケーラー相互実習	22 - ①	実技試験練習
9-②,10-①	歯面研磨実習（前歯部）	22 - ②	模擬患者実習に向けての
10-②,11-①	下顎右側臼歯部の相互実習	23	相互実習
11-②,12-①	下顎左側臼歯部の相互実習	24	模擬患者実習に向けての
12-②,13-①	マネキン実習②		プレ実習（1 年生対象）
授業形式			
講義・実習			
教科書・参考書			
歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」第2 版（医歯薬出版）			
評価の方法			
筆記試験			
備考			

科目名	歯科予防処置論Ⅴ
学年	3 年次
単位	1 単位
時間数	3 0 時間（9 回）
学習目標	
基礎実習・相互実習で習得した手技を、臨床に即した実習の中で展開させ、臨床現場で実践できる能力を養う。 対象者の状況を把握し、メンテナンスや SPT の方向づけができる能力を養う。	
授業計画	
1	患者実習における口腔内診査と情報収集について
2	模擬患者実習に向けての相互実習
3	模擬患者実習 1 回目 アセスメント（情報収集）
4	模擬患者実習に向けての相互実習
5	模擬患者実習 2 回目 歯科衛生介入
6	メンテナンス・SPT について
7	臨床での歯科衛生活動（実施計画立案・継続管理について）
8	口腔衛生管理 相互実習
授業形式	
講義・実習	
教科書・参考書	
歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」（医歯薬出版）	
評価の方法	
筆記試験	
備考	
歯科保健指導論Ⅳと並行して実施する。	

科目名	歯科保健指導論 I
学年	1 年生
単位	2 単位
時間数	40 時間（10 回）
学習目標	
1. 歯科保健の概念を理解し、基本的な歯科保健指導の知識と技術の習得をめざす。	
授業計画	
1. 歯科保健について（概念・基本的用語・関係法令） 2. 口腔の正常像の理解 3. 初期病変の理解・顎運動・歯科心身症・主な歯科治療について 4. 口腔内観察方法について 5. 口腔清掃指導法について（ブラッシング方法・補助清掃用具の種類使用方法など） 6. 口腔内の評価指標について（PCR・OHI） 7. 口腔内観察実習 8. 口腔内の評価指標について（その他の指数） 9. 情報収集と処理について（う蝕活動性試験） 10. 口腔清掃実習（歯の汚れの観察方法も含む）	
授業形式	
講義・実習	
教科書・参考書	
歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」第2版（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ「保健生態学」（医歯薬出版）	
評価の方法	
筆記試験	
備考	

科目名	歯科保健指導論Ⅱ
学年	1 年生
単位	2 単位
時間数	6 0 時間（1 5 回）
学習目標	
1. ライフステージ別に口腔環境の実際を理解し、生活背景を理解した上で望ましい歯科保健行動を指導できる知識と技術の習得をめざす。	
授業計画	
<u>講 義</u> 1. 歯科保健行動について（日常生活と歯科保健の関係） 2. 食生活指導のための基礎知識 3. ライフステージ別の口腔環境変化・生活環境変化（摂食嚥下機能の基礎知識を含む） 4. ライフステージ別の歯科保健行動（妊産婦） 5. ライフステージ別の歯科保健行動（乳幼児期） 6. ライフステージ別の歯科保健行動（学童） 7. ライフステージ別の歯科保健行動（青年期） 8. ライフステージ別の歯科保健行動（成人期） 9. ライフステージ別の歯科保健行動（老年期） 10. ライフステージ別の歯科保健行動（要介護老人・心身障害者・大規模災害被災者） 11. 生活習慣の指導（NCDs・禁煙指導） <u>実 習</u> 1. 相互実習 ・ブラッシング技術の確認 ・ライフステージに合わせた歯科保健指導の実施 ・カリエスリスクテストを用いた歯科保健指導の実施 2. シミュレータを用いた口腔衛生管理の実習	
授業形式	
講義・実習	
教科書・参考書	
歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」第2版（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ「保健生態学」（医歯薬出版）	
評価の方法	
筆記試験	
備考	

科目名	歯科保健指導論Ⅲ
学年	2年生
単位	3単位
時間数	66時間（17回）
学習目標	
1. 的確に対象者の把握とその情報整理が行え、対象者の問題解決プロセスを組み立てることができる知識と技術の習得をめざす。 2. 業務記録を作成する知識と技術の習得をめざす。 3. 小集団指導の知識と技術の習得をめざす。 4. 配慮を要する者へ口腔衛生管理を実施する際の知識と技術の習得をめざす。	
授業計画	
1. 歯科保健指導の考え方と手順 2. 保健行動支援・情報収集と整理 ・行動変容、動機づけ面接について 3. 歯科衛生過程の進め方 ・対象者の把握・アセスメント ・解釈・分析・歯科衛生診断 ・歯科衛生計画立案 ・歯科衛生評価 4. 地域歯科保健活動 ・小集団への歯科保健指導（指導の考え方・場の把握・媒体など） ・対象集団別の指導内容の選択 5. 配慮を要する者への歯科衛生介入 ・口腔衛生管理の実施方法や器具の選択と使用方法 ・シミュレータと汚れ剤を用いた口腔衛生管理実習	
授業形式	
講義・実習	
教科書・参考書	
歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」第2版（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ「保健生態学」（医歯薬出版） 「歯科衛生士のための摂食・嚥下リハビリテーション」第2版（医歯薬出版） 「よくわかる歯科衛生過程」（医歯薬出版）	
評価の方法	
筆記試験	
備考	

科目名	歯科保健指導論Ⅳ		
学年	３年生前期		
単位	１単位		
時間数	３０時間（８回）		
学習目標			
今まで学んだ知識を生かし、歯科衛生過程の考え方を取り入れた症例検討の知識と技術の習得をめざす。			
授業計画			
※歯科予防処置論Ⅴの模擬患者実習と連動して進めます。 １．歯科衛生過程・アセスメント（情報収集・処理）について ２．アセスメント（情報分析）・歯科衛生診断 ３．歯科衛生計画立案 ４．歯科衛生評価 ５．症例検討と報告作成 ６．症例報告（１人１０分）			
}			
模擬患者実習の内容を使用し展開			
授業形式			
講義			
教科書・参考書			
歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」第２版（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ「保健生態学」（医歯薬出版） 「よくわかる歯科衛生過程」（医歯薬出版）			
評価の方法			
プレゼン資料・レポート提出			
備考			
歯科予防処置論Ⅴと並行して実施する。 歯科予防処置論Ⅴで実習した模擬患者の症例を検討していく。			

科目名	歯科診療補助論Ⅰ
学年	1 年生
単位	2 単位
時間数	3 2 時間（8 回）
学習目標	
歯科診療補助の概要を理解するとともに、歯科診療の補助のために必要な基礎知識技術および態度を習得する	
授業計画	
1 回目 歯科診療補助の概要 歯科診療の補助の法的な変化 歯科用ユニットの構造・機能 2 回目 歯科医療における感染症の概念 感染症と感染対策 スタンダードプリコーション 手指衛生【実習】 3 回目 リスクアセスメント 滅菌・消毒・洗浄の定義 石膏棒作成【実習】 4 回目 歯科医療における感染予防対策 個人防護【実習】 共同動作の概念 ポジショニング 5 回目 患者誘導 1【実習】 滅菌・消毒 6 回目 歯科診療室の構造と設備 薬品・歯科材料の管理 7 回目 患者誘導 2【実習】 バキュームテクニック 8 回目 医療安全 廃棄物の概要 医療安全対策 まとめ	
授業形式	
講義・実習	
教科書・参考書	
歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論」（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ「歯科機器」（医歯薬出版） 「歯科医療における国際基準 感染予防対策テキスト滅菌・消毒・洗浄」（医歯薬出版）	
評価の方法	
単位試験	
備考	

科目名	歯科診療補助論Ⅱ
学年	1 年生
単位	1 単位
時間数	40 時間（10 回）
学習目標	
共同動作の意義を理解し、安全・確実に実施できる知識・技術を習得する	
授業計画	
1. 口腔内洗浄・バキューム操作について 実習 2. 衛生材料（綿球 綿花 ガーゼ）作成実習 3. 器具の受け渡しについて 4. ラバーダム防湿実習 5. 歯科診療で扱う歯科材料 印象採得 歯科用石膏 6. アルジネート印象材による概形印象採得、石膏模型作成 1 7. アルジネート印象材による概形印象採得、石膏模型作成 2 8. アルジネート印象材による概形印象採得、石膏模型作成 3 9. アルジネート印象材による概形印象採得、石膏模型作成 4 10. アルジネート印象材による概形印象採得、石膏模型作成 5	
授業形式	
講義・実習	
教科書・参考書	
歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論」（医歯薬出版）	
評価の方法	
単位試験	
備考	

科目名	歯科診療補助論Ⅲ
学年	2 年生
単位	2 単位
時間数	6 0 時間（1 5 回）
学習目標	
各治療の特徴を理解した上で、診療の手順やその際に準備する器材、診療補助のポイントを習得する。	
授業計画	
1. 口腔内写真撮影 実習 1 2. 口腔内写真撮影 実習 2 3. 保存修復時の診療補助 4. 歯内療法時の診療補助 5. 歯周外科治療時の診療補助 6. 補綴治療時の診療補助 7. 口腔外科治療時の診療補助 8. 矯正歯科治療時の診療補助 9. 小児歯科治療時の診療補助 1 0. 歯科麻酔時の診療補助 1 1. 妊産婦、高齢者、障害児・者の診療補助 1 2. 主な全身疾患とその対応 1 3. 口腔内写真撮影 実習 3 1 4. 口腔内写真撮影 実習 4 1 5. 暫間被覆冠作製実習	
授業形式	
講義・実習	
教科書・参考書	
歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論」（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ「歯科機器」（医歯薬出版）	
評価の方法	
単位試験	
備考	

科目名	歯科診療補助論Ⅳ
学 年	2 年生
単 位	2 単位
時間数	5 2 時間（13 回）
学習目標	
多職種連携協働学習において、歯科衛生士の役割、多職種との関わりについて習得する。 協働学習において、事例検討より課題分析・症例発表を通してお互いの職種への理解を深める。 周術期口腔健康管理において歯科診療補助・歯科訪問診療における対応を習得する。 摂食嚥下リハビリテーションにおいて知識と技術の習得をする。	
授業計画	
・多職種連携協働学習：地域包括ケアシステム・多職種連携・チーム医療 - 全身疾患、歯科疾患の関連性 - 事例検討・課題分析 - 看護専門学校と協働学習 ・周術期口腔健康管理：周術期の口腔健康管理について ・摂食嚥下リハビリテーション： - 概論 - 摂食嚥下機能のメカニズム - 栄養管理 - 病態別摂食嚥下障害 - 摂食嚥下の評価 - 口腔衛生管理 - 摂食嚥下訓練 - リスクマネジメント	
授業形式	
講義・実習	
教科書・参考書	
「歯科診療補助論」（医歯薬出版） 「歯科衛生士のための摂食・嚥下リハビリテーション」（医歯薬出版）	
評価の方法	
単位試験	
備考	

科目名	臨床検査学
学 年	2 学年
単 位	1 単位
時間数	1 6 時間（4 回）
学習目標	
慢性疾患を有している患者の歯科治療の機会が増加している。このような患者に最初に接することが多い歯科衛生士が患者とのコミュニケーションを良好に保つために、臨床検査の概要を把握するとともに、歯科来院患者で比較的遭遇することの多い疾患とその検査法、および検査データが示す意味を理解する。	
授業計画	
【講義】 臨床検査学総論 生体検査と検体検査 検査成績の読み方 各論一検体検査（1）一般検査……尿 血液検査……血球 各論一検体検査（2）血液生化学検査、免疫検査……血漿 肝機能、糖尿病、感染症 各論一検体検査（3）病理検査……組織・細胞 口腔領域の臨床検査 【実習】 糖負荷試験（血糖値測定）	
授業形式	
講義・実習	
教科書・参考書	
最新歯科衛生士教本 臨床検査（医歯薬出版）	
評価の方法	
歯科衛生士国家試験に準じた MCQ 形式の問題にて総括的評価を行う。	
備考	
将来受験する歯科衛生士国家試験のために有用なノートを丁寧に作成すること。	

科目名	歯科材料学 I
学年	2 年生
単位	1 単位
時間数	2 4 時間（6 回）
学習目標	
一般目標 歯科衛生士としての資質を高め、業務を円滑に行うため、歯科材料の種類、目的、用途について基礎知識を習得する。	
授業計画	
1. 歯科材料と歯科衛生士・歯科材料の基礎知識 2. 歯科衛生にかかわる材料・成形修復材 3. 印象材 4. 模型用材料・合着剤と接着剤 5. 仮封材・暫間修復材と仮着用セメント・ワックス 金属・セラミック・その他の歯科材料 6. 復習講義	
授業形式	
講義(スライド講義・パワーポイント)	
教科書・参考書	
歯科衛生学シリーズ 歯科材料 （医歯薬出版）	
評価の方法	
単位試験にて評価 60 点以上合格	
備考	

科目名	歯科材料学Ⅱ
学年	2 年生
単位	1 単位
時間数	4 0 時間（1 0 回）
学習目標	
歯科材料学Ⅰで学習した各材料の組成、性状を十分理解したうえで、確実な取扱い方法を習得する	
授業計画	
1. 模型用材料実習 2. 合着材実習 3. 接着材実習 4. 仮封材・仮着材実習 5. 歯科保存にかかわる材料、歯科補綴にかかわる材料 6. 印象材の取り扱い実習 7～10. 印象採得・石膏注入実習	
授業形式	
講義・実習	
教科書・参考書	
歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論」（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ「歯科材料」（医歯薬出版）	
評価の方法	
筆記試験	
備考	

科目名	感染予防
学 年	2 年次
単 位	1 単位
時間数	1 6 時間（4 回）
学習目標	
感染予防の重要性を認識し、施設内感染の複雑・多様化に対応できる知識を身につける	
授業計画	
1. 感染予防対策の基本 スタンダードプレコーション 2. 滅菌・消毒・洗浄の基本 3. 歯科診療における感染予防対策の実際 医療廃棄物の処理 4. 医療従事者の感染予防対策	
授業形式	
講義とパワーポイントによる画像閲覧、動画による感染対策の確認	
教科書・参考書	
歯科医療における国際標準 感染予防対策テキスト（医歯薬出版）	
評価の方法	
筆記試験	
備考	

科目名	高齢者歯科
学 年	2 年次
単 位	1 単位
時間数	2 8 時間（7 回）
学習目標	
高齢者は全身的・心理的・社会的において一般成人と同等に扱うことは出来ない。歯科領域でも同じである。そこで歯科衛生士として必要な高齢者の特徴を理解し、高齢者に対する歯科診療の介助、口腔ケアおよび対応について習得する。	
授業計画	
1 回 高齢者を取り巻く社会と加齢の科学 高齢化の現状と将来、老化の定義・機序、高齢者の組織・器官・身体機能の変化、顎口腔系の加齢的变化 など 2 回 高齢者における口腔領域の疾患 高齢者のう蝕・歯内疾患・歯周疾患の特徴、高齢者に多い口腔粘膜疾患、口腔乾燥症について など 3 回 全身状態の把握と対応 高齢患者とのコミュニケーション・医療面接・介助 高齢者に多い全身疾患と口腔・歯科治療との関係 など 4 回 高齢者歯科医療の場 生活自立度、介護保険法、介護保険法の創設・背景と現状、介護予防、訪問歯科診療の意義 など 5 回 口腔衛生管理 口腔ケアの定義・効果、要介護者および介護者の口腔ケアとの関わり 終末期の口腔ケア、義歯の取り扱い方法 など 6 回 摂食嚥下障害と対応（概要） 摂食嚥下機能、摂食嚥下障害、摂食嚥下障害の検査法、摂食嚥下障害への対応、構音障害への対応 など 7 回 高齢者の栄養管理と他職種連携 高齢者の栄養管理、栄養サポートチーム（NST）の役割 他職種連携 など	
授業形式	
講義 実習	
教科書・参考書	
高齢者歯科	
評価の方法	
筆記試験による点数にて評価	
備考	

科目名	摂食嚥下リハビリテーション学
学 年	3 年次
単 位	1 単位
時間数	1 6 時間（4 回）
学習目標	
歯科衛生士として摂食嚥下に関わる機能の獲得や障害について理解し、リハビリテーションやチームアプローチの方法を習得する。また、口腔機能低下についての理解を深める。	
授業計画	
1. 摂食・嚥下について（辻本先生） ・摂食・嚥下のメカニズム ・摂食・嚥下障害とは：原因となるもの 影響を与える薬剤 2. 摂食嚥下障害の基礎知識（貴島先生） 3. 口腔機能低下と口腔機能療法について（貴島先生） ・口腔機能低下症とは ・測定の方法、使用器具 ・口腔機能療法とは 4. 摂食・嚥下障害について（瀬尾先生） ・摂食嚥下の解剖・生理 ・スクリーニングテスト・モニター ・嚥下造影検査（VF）について ・摂食嚥下訓練の実際	
授業形式	
講義	
教科書・参考書	
評価の方法	
出席状況により評価	
備考	

科目名	障害者歯科
学 年	2 年次
単 位	1 単位
時間数	2 0 時間 (5 回)
学習目標	
一般歯科医院においても障がい者の歯科治療の機会が多く、障害者歯科学の必要性は高い。しかし、障がい者の歯科治療や口腔ケアを行う際には、より専門的な配慮が必要となる。歯科衛生士や歯科技工士が歯科医師とともに障がい者の歯科治療を補助し、口腔の健康を維持・向上するためには、「障害」の概念を理解した上で、さまざまな障害を体系的に把握し、さらに、その詳細について理解して、障がい者に対して行う基本的な治療方法を知る必要がある。この科目では、講義によって歯科医療人として必要な障害者の知識を習得するとともに、医療現場において、障がい者に対し適切に対応して治療を行うための知識を身に付ける。	
授業計画	
1. 障がい者歯科総論（障害の概念、障がい者の保健・医療・福祉の仕組み） 2. 障害の種類Ⅰ 3. 障害の種類Ⅱ 4. 障害のある人への行動調整 5. 障害者の口腔衛生管理	
授業形式	
1 教科書に基づく講義 2. Power Point での写真等を用いた説明	
教科書・参考書	
歯科衛生学シリーズ 障害者歯科（医歯薬出版）	
評価の方法	
授業態度、課題レポートおよび単位試験を行い総合的に評価する。 ・ 授業態度……10% ・ 科目試験……90%	
備考	
障がい者の歯科治療では、一般の患者以上に配慮が必要となります。臨床実習でもしっかりと対応できるように学修してください。	

科目名	臨床実習 I
学 年	1 年生 後期
単 位	1 単位
時間数	4 5 時間
一般目標	
歯科医院での見学実習を通して、医療人としての心構えや姿勢を学ぶ。 歯科治療の流れや歯科衛生業務を見学し、2 年次から開始する臨床講義の理解を深める。	
行動目標	
1. 医療人としてふさわしい身だしなみを整えることができる 2. 清潔・不潔の概念を理解し感染予防ができる 3. 歯科治療の流れを理解する 4. 患者誘導をする	
実習施設	
歯科医院	
備考	
実習 (評価の方法) 出席率及び到達度評価	

科目名	臨床実習Ⅱ		
学 年	3 年生 前期		
単 位	5 単位		
時間数	2 2 5 時間		
一般目標			
大学病院の特性を理解し、各診療科において知識・技術を身につける。 また清潔・不潔の概念を踏まえ大学病院での感染予防対策を学ぶ。			
行動目標			
1. 医療人としてふさわしい身だしなみを整えることができる 2. 各診療科の治療内容を説明することができる 3. 器材の準備ができる 4. 標準予防策を説明することができる 5. 清潔・不潔の概念を理解し感染予防ができる			
実習施設			
大阪歯科大学附属病院		奈良県立医科大学附属病院 天理よろづ相談所病院 平成記念病院 服部記念病院 高井病院 奈良県総合医療センター	
備考			
実習 (評価の方法) 出席率及び到達度評価			

科目名	臨床実習Ⅲ
学 年	2 年 生 ・ 後 期
単 位	5 単 位
時間数	2 2 5 時 間
一般目標	
1. 医療人としての倫理観を養い、良い対人関係を保つためのコミュニケーション能力を身につける 2. 診療目的および内容を理解し、基本的な共同動作を習得する 3. 歯科治療で使用する材料、薬品の性質を理解する 4. 感染予防に対する知識を習得し、安全に医療が行える技術を身につける	
行動目標	
1. 医療人として適切な身だしなみを整えることができる 2. 対象者に応じた正しい敬語や挨拶、返事ができる 3. 患者にいたわりを持ち、良好なコミュニケーションを図ることができる 4. スタッフと良好な関係を築き、協力して仕事を進めることができる 5. 歯科治療の術式および器材の用途を述べるができる 6. 器材の準備ができる 7. 適切なバキューム操作ができる 8. 標準予防策を説明することができる 9. 診療所内のルールに則り感染予防ができる 10. 診療室内の環境を整えることができる	
実習施設	
歯科診療所	
備考	
実習 （評価の方法）出席率及び到達度評価	

科目名	臨床実習Ⅳ
学 年	3 年 生 前 期 ・ 後 期
単 位	7 単 位
時間数	3 1 5 時 間
一般目標	
1. 医療現場における歯科衛生士の使命を理解する 2. 患者をより理解するためのコミュニケーション技術を身につける 4. 歯科医療現場におけるチームアプローチを理解する 5. 診療補助業務を適切に遂行し、応用展開できる能力を身につける 6. う蝕と歯周病の基礎知識を基に、予防業務が適切に行える能力を身につける 7. 各ライフステージにおける歯科保健行動を指導する能力を身につける 8. 歯科衛生プロセスを理解し、論理的思考能力を養う	
行動目標	
1. 患者の状態に応じて適切な援助ができる 2. 言語的・非言語的コミュニケーションを効果的に行うことができる 3. 自ら進んで問題解決に結びつく行動を起こすことができる 4. 口腔を観察し状態を把握できる 5. 状況を判断し適切な診療補助ができる 6. 対象に応じた予防業務ができる 7. 対象に応じた保健業務ができる 8. 対象に応じた歯科衛生プロセスを構築することができる	
実習施設	
歯科診療所	
備考	
実習 （評価の方法）出席率及び到達度評価	

科目名	臨地実習
学 年	3 年生
単 位	2 単位
時間数	9 0 時間
一般目標	
各臨地実習施設での歯科衛生士の役割を理解し、活動の場を知る。 多職種との連携において、歯科衛生士の専門性がどのように活かされているかを理解し チームアプローチを学ぶ。	
行動目標	
1. 医療人としてふさわしい身だしなみを整えることができる 2. 各実習施設において歯科衛生士の役割を説明することができる 3. 対象者に応じた歯と口腔の健康支援ができる 4. 多職種の専門性を理解し、協働することができる	
実習施設	
心身障害者歯科 障害者施設 県下保健所 幼稚園 介護施設ほか	
備考	
実習 (評価の方法) 出席率及び到達度評価	

科目名	介護技術
学 年	2 年次
単 位	1 単位
時間数	1 6 時間 （6 回）
学習目標	
高齢期を迎える前からの健康管理への備えや地域での高齢者支援を学び、自立に向けた高齢者介護の知識・技術を習得する	
授業計画	
1. 高齢者の健康と安全 健康な高齢者を目指して、高齢者の理解、事故の予防と手当・急病への対応 2. 地域における高齢者支援 支援活動とは、支援活動における高齢者の理解、支援活動にあたって ほか 3. 日常生活における介護 介護にあたって、居室の環境、移動、車椅子への移乗、食事、排泄 着替え、清潔、認知症高齢者への対応、床ずれについて ほか 4. 介護予防教室について（歯科衛生士会） 5. 在宅訪問診療について（歯科衛生士会） 6. 県営福祉パーク見学	
授業形式	
講義・演習	
教科書・参考書	
健康生活支援講習テキスト（日本赤十字社）	
評価の方法	
認定試験（40分）	
備考	

科目名	看護概論
学 年	2 年次
単 位	1 単位
時間数	2 0 時間（5 回）
学習目標	
I．社会情勢における医療の課題と歯科衛生士の役割を理解する事ができる。 II．看護の概念を知る事で歯科衛生士の視点に共通する看護の役割を理解する事ができる。 III．基礎看護と技術を学習し、歯科衛生士の業務に応用できる看護実務を身に付ける事ができる。 IV．多職種連携の学習を通じて、地域医療における歯科衛生士の役割を理解する事ができる。	
授業計画	
I．人口動態と社会情勢における歯科衛生士の役割 ①日本の人口動態 ②歯科衛生士の活動の場 ③医療チームにおける歯科衛生士の役割 II．看護の概念 ①看護の定義と役割 ②看護師と歯科衛生士の役割に共通するも視点 III．看護技術 ①効果的なコミュニケーションの方法 ②対象に応じた接し方 ③バイタルサインの基礎と異常の早期発見 ④心電図モニターの基礎（実技演習） ⑤口腔内吸引／鼻腔内吸引(実技演習) ⑥点滴療法の目的と観察点 ⑦気管カニューレの構造／気管切開を有する対象者の観察・安全管理 IV．看護実務 ①口腔ケアと全身状態と関連 ②歯科治療・口腔ケア中に起こり得る緊急時の対応 ③医療安全対策と事故防止 V．地域医療 ①社会背景と地域医療の現状 ②地域医療に関わる職種 ③多職種連携の実際 ④訪問歯科衛生指導における看護師との協働 ⑤訪問歯科に関わる事例検討	
授業形式	
講義、グループワーク、実技演習	
教科書・参考書	
評価の方法	
筆記試験	
備考	

科目名	あきしの研究
学 年	2 年次
単 位	2 単位
時間数	4 0 時間（1 0 回）
学習目標	
1 年間の学習を振り返り、疑問に思ったことや興味を持った事柄を研究テーマとし、学内の講義・実習とは違う視点で自ら問題解決できる能力を養う。	
授業計画	
①研究説明、研究内容の検討 ②研究実施内容の検討 ③実験・発表原稿と媒体の作成 ④実験・発表原稿と媒体の作成 ⑤実験・発表原稿と媒体の作成 ⑥実験・発表原稿と媒体の作成 ⑦発表原稿と媒体の作成 ⑧発表原稿と媒体の作成 ⑨クラス発表 ⑩発表原稿の最終訂正・発表確認	
授業形式	
演習	
教科書・参考書	
各研究内容に必要な教科書	
評価の方法	
あきしの学内発表	
備考	
グループごとに研究テーマを決めて、研究・発表をおこなう	

科目名	情報処理
学 年	1 年次
単 位	1 単位
時間数	2 0 時間（10 回）
学習目標	
• Microsoft Office（Word、Excel、PowerPoint）の基本操作を習得し、レポートやプレゼン資料が作成できるようになる。 • Web 版 office とデスクトップ版 office の機能の違いを認識する。 • OneDrive の使い方を習得し、ファイルやフォルダの管理ができるようになる。	
授業計画	
1. Word①（文字の入力 基本的な文書の作成） 2. Word②（図や表を活用した文書の作成） 3. Word③（表現力をアップする機能の活用） 4. Word④（Web 版とデスクトップ版の違い） OneDrive の使い方 5. Excel①（表の作成・基本的な関数の利用） 6. Excel②（相対参照と絶対参照・関数の応用） 7. Excel③（グラフの作成・並べ替え・フィルタ） 8. PowerPoint①（基本操作） 9. PowerPoint②（課題作成） 10. PowerPoint③（発表） 総復習（試験対策）	
授業形式	
コンピュータを使用した実習形式	
教科書・参考書	
「情報リテラシー 入門編」 FOM 出版	
評価の方法	
筆記試験	
備考	

科目名	保険請求事務
学 年	3 年次
単 位	1 単位
時間数	1 6 時間（4 回）
学習目標	
医療保険制度のあり方を学び、診療報酬明細書の記載方法など、歯科衛生士が身につけるべき歯科保険医療の具体的な実務について理解する。	
授業計画	
1. 医療保険制度について 2. 福祉医療費助成制度について 3. 社会保険歯科診療報酬点数表の見方 4. カルテ、レセプトに使用できる略称について 5. 診療報酬明細書および請求書について 6. 歯と口の治療管理 7. 用語・指導・管理について	
授業形式	
講義	
教科書・参考書	
社会保険委員会より準備される資料	
評価の方法	
筆記試験	
備考	

科目名	接遇マナー講習
学 年	1 年次
単 位	1 単位
時間数	1 6 時間（8 回）
学習目標	
・ 現代マナーの必要性を感じて頂く。 ・ 社会に出た時に、不自由をしないよう学んで頂く。 ・ 社会でコミュニケーションを上手くとれるようにする。	
授業計画	
・ 誰にでも必要であり就職してからなどの時期を選ばず必要であることを理解して頂く。 ・ 例えば、敬語などすぐにできると思えるようなことを実際話してもらうことで難しく、以外にできないことを知って頂き、日頃から意識し、訓練が必要であると感じて頂く。 ・ おじぎ、挨拶、敬語、立居振舞いなどの基本的なことから動作を中心に授業を行う。 ・ 基本をふまえて、ビジネスマナーの基本である電話応接、接遇マナーを学んで頂く。 ・ 就職にそなえての面接のマナーをしながら実技を通して今まで学んだ基本ができているかチェックする。 ・ 知識面においても、まとめテストを行うことで確認をする。	
授業形式	
・ 実技（動作）中心。（実技演習） ・ 対話形式で、一方的に教えるのではなく、できるだけ多くの生徒に質問したり動作をしてもらい、それぞれ考えて頂きながら授業を進める。	
教科書・参考書	
作成したレジメ使用。	
評価の方法	
筆記試験	
備考	

科目名	音楽
学 年	1 年次
単 位	1 単位
時間数	1 6 時間（8 回）
学習目標	
◆音楽を通して、物事の美しさに触れ、心の豊かさを育む。表現活動を楽しみながらコミュニケーション力を高める。歌唱を中心に学び、式典での美しい合唱の披露を目指す。	
授業計画	
1. オリエンテーション	・ボディパーカッションや簡単な発声を伴ったウォームアップアクティビティで音楽そのものを楽しむ。 ・心地よい発声を体得する。
2. アンサンブル 1 「やまびこ」「君が代」	・カノンで他者とのコミュニケーションを図りながら歌う。 ・「移動ド」とハンドサインについて学ぶ。 ・歌の自然なフレージングを考える。
3. アンサンブル 2 「わたしのなかには」 「校歌」	・オスティナートを伴った歌唱でより入り組んだ合唱を体験する。 ・歌詞とメロディーの関係を知る。 ・校歌を覚える。
4. アンサンブル 3 「きよしこの夜」他 「蛍の光」	・様々なタイプの合唱を体験する。 ・簡単なリズム楽器やボディパーカッションを交えて歌う。 ・ハーモニーの概念を理解する。
5. アンサンブル 4 「希望のささやき」	・2 声で互いの声部を聴き合いながら歌う。
6. 7. 8. アンサンブル 5～7 式典曲を中心に	・式典での歌唱ステージを意識しながらパフォーマンスを高める。 ・個々の個性と全体のまとまりを感じながら合唱を完成させる。
授業形式	
◆合唱・鑑賞（実技演習） リトミック、ボディーパーカッション、リスニング、発声、斉唱、合唱	
教科書・参考書	
◆「合唱のイントロダクション～合唱の本当のキソを身に付けよう」 （Brain Choral Edition） ◆創作わらべうた他、補助楽譜（各授業で配布）	
評価の方法	
◆出席点（80点）意欲・態度点（20%）	
備考	
◆リラックスできる服装が望ましい。	

科目名	体育（肩こり腰痛予防体操）
学 年	1 年次
単 位	1 単位
時間数	1 6 時間（8 回）
学習目標	
体を動かしながら腹式呼吸法を取り入れることで、酸素が頭にめぐり日々のストレスを分散させ、リラックス効果を得る。 また、肩こり腰痛予防のストレッチ体操や筋力トレーニングを習得することで、疲労回復、肩こり腰痛予防に役立てる。	
授業計画（案）	
1. オリエンテーション、ストレッチ体操の説明・実践 2. 自分の身体の状態を把握する（姿勢・バランス） 3. ストレッチ体操の基礎・実践 4. 体幹トレーニングの基礎・実践 5. 有酸素運動の基礎・実践 6. 〃 7. ヨガ・ピラティスの実践、リラクゼーションの基礎と方法 8. 振り返りの実技テスト・まとめ	
授業形式	
実技演習	
教科書・参考書	
なし	
評価の方法	
出席点（80％）実技確認（20％）	
備考	